

## 第 5 回合併協議会（8/28）での意見と対応（案）

頁	段落、行等	意見等	対応
12	全体	第 2 章第 1 節の 5 財政状況を平成 14 年度決算に置き換えできないか。	平成 14 年度決算が確定後に修正予定です。
28 ~ 34	将来構想部分全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来構想の内容で、青少年対策、福祉、森林に対するものが弱い。</li> <li>・下記の 3 点を基本方針に入れてほしい。 新しい取り組みをしてほしい。昭和の大合併のひずみとして大きな傷跡を残した。35 年有余の間、集落間の国道整備ができなかった。これが人口流出を引き起こし、山林整備もできていない。</li> </ul>	<p>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路整備については【生活環境の向上】という基本方針の中で対応を図ります。</li> <li>・山林整備については、【自然との共生】という基本方針の中で対応を図ります。</li> </ul>
		過疎化の問題。山林所有地の境界が分からなくなっているため、測量によりはっきりさせてほしい。7 市町村で山林は面積の 7 割を占める。	
		現在の森林管理（整備）の状態を放置すれば、将来は土石流災害の発生の危険が高まっている。	<p>について</p> <p>の山林整備と同様の対応</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記 3 点に加えて、福祉も大事なことである。身障者、知的障害者は、親兄弟がいなくても生活していけるような世の中にしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉については【健康・福祉の充実】という基本方針の中で対応を図ります。</li> </ul>
28 ~ 34	将来構想部分全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャブは出ているがパンチがない。富山市では 5 つの柱を立てている。人づくり、人材づくりが大切。富山は人づくりに頑張っている。小・中学校は出てきているが、高等教育に関する記述がない。市が関わる問題ではないかもしれないが、生涯教育は高等教育機関が無くてはできない。</li> </ul>	<p>（33 頁下 2 行の前に）</p> <p>「なお、地域における教育・文化の振興にとって高等教育機関の果たす役割は大きく、また、地域文化・経済の発展にも大きく貢献します。すなわち、大学等高等教育機関との連携・交流を強化し、地域に開かれた教育システムの充実を図ります。」を追加します。</p>
28 ~ 34	将来構想部分全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この将来構想は、周辺 6 町村に配慮した内容が多いと思う。しかし、これからは新潟や金沢との都市間競争である。中心市街地を再開発で活性化する必要がある。それなら合併しよう、というような強力な表現がほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・37 頁、3.地域別の土地利用の方針で、「富山駅周辺を含む市街地は、.....中核市にふさわしい商業・業務・.....、高次都市機能の再編・整備や.....、..中心市街地としてのにぎわいづくりを促進します。」と記述しており、意見内容には応えていると思います。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山は緑と人間が共生できるところである。南西部の呉羽丘陵を含む区域を表現してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージ図を修正済みです。</li> </ul>

32 ~ 34	新市のまちづくりの基本方針	<p>・第2章第4節「地域の特性と課題」の序文に、「人づくりや自然環境への配慮、交流と連携」が構成市町村の共通ビジョンであると記述されているところだが、第4章第1節の「創造する、みんなで創り出すまち」づくりに「多種多様な資産を人づくり、まちづくりに活かし、地域の産業や住民生活の豊かさにつなぎ、.....そして幅広い人材育成と人材活用を、既存産業の再生と新産業を創造につなぐ」となっているが、新市まちづくりの基本方針には「未来を創造するひとづくり」の記述が不足しているように思う。</p> <hr/> <p>・基本理念に「地域住民のまちづくりへの参画 連携 交流」が課題とされているが、基本方針に都市部と農村部（中山間地）の役割や連携と交流等、新市住民の連帯感や感性の涵養の記述も必要と考える。</p> <p>以上の2件は、協議会委員からFAXにて提出された意見です。</p>	<p>・下から7行目「を目指し」の前に「、個性を生かす教育、自ら学ぶ力の育成」を追加します。</p> <hr/> <p>・交流については委員会の意見を受けて、基本方針【産業の振興】の文章を修正しました。</p> <p>・連携については【住民参画・連携・交流の促進】の基本方針の文章2行目に次の下線分を追加します。「...進めるためには、<u>都市部と中山間地域の住民が各々の役割を認識しつつ、連携・交流するとともに、新市の</u>....」.</p> <p>また、同文章5行目に下線部を追加します。「.....<u>交流機会の創出により新市住民の連帯感や感性の涵養を図るとともに</u>.....」</p>
38	23行目	<p>・八尾の「おわら風の盆」や「曳き山祭り」は、観光レクリエーション拠点で明示するものではなく、伝統文化拠点を追加し、土地利用の観点から、地域固有の文化財を保存・継承し、その夢舞台である街並景観保全を含めた土地利用の方向性を示すべきではないか。</p>	<p>・ここで示した拠点は、これから新市を牽引していくための力強い拠点として4種類の拠点を示しています。新市の環境整備の基礎となる生活拠点と、外との繋がりで大きな力を発揮する広域拠点、観光レクリエーション拠点、産業拠点です。</p> <p>・「伝統文化拠点」としての表現も考えられますが、八尾の持つ伝統文化を観光として対外的に売り出し、これによって新市に活力を与える、というねらいから「観光レクリエーション拠点」とする方が活性化を目指す方向からはより適切と考えました。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>外からの来客は、伝統文化で来る、というよりも観光によって集まります（観光として打ち出す方が力強い）。例えば、京都、金沢、川越なども中身は歴史、伝統、文化だが、そのような表現でなく観光拠点となっています。</li> </ul>
39	新市の将来イメージ図	<p>（将来構想図について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新市内連携軸は、生活拠点連携を連携させているが、観光レクリエーション拠点にも道路網が存在するものであり、これも連携させるべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新市内連携軸は、地域内の連携を、生活拠点を結ぶことによって表現しています。</li> <li>観光レクリエーション拠点は新市内では各生活拠点と連携し、市外に対しては各軸によって交流・連携しています。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>合併後の隣接市町村との連携も必要であり、近隣連携軸も網羅すべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣市町村との連携は従来どおり必要です。ここで表現しているのはそれよりももっと強い力で地域内を一体化させる軸、外との連携は近隣とも当然必要ですが、より強い力で広域的な連携が必要なことを表わしています。</li> <li>近隣との強い連携軸を入れると、そちらとも合併したほうが良いとの解釈につながる可能性があり、広域的連携を表現するにはふさわしくないと考えています。</li> </ul>